

自転車に乗れる　ようになるのに人より
時間がかかった　父は　諦めるのが早い
んだあんたはと言うが　俺が諦めるより
父が俺を諦める方が早かった　と今では
思う

俺は

自分が漕いでいる自転車の車輪を見よう
としていつも　バランスを崩すのだった
車輪を覗きたがるのは　俺の生来の悪癖
で　父の運転する車の車輪も　窓を開け
て覗きたがるものだから　助手席の母は
俺の隣の　後部座席に移動せざるを得な
かった　それを申し訳なく思う　今では
思う

俺が

当時に　思っていたのは　リアガラスに
映る　太陽が　俺たちを　俺たちの車を
追いかけてるように見えた　ってこと　だ

月が　出た

この宵　今宵

転がっていた　大車輪

その上に乗ってたのは

元右大臣　菅原道真　だったかもしれないし
一輪車さえ乗りこなした　うちの妹　かもね
今度は俺が　車輪に覗かれる番だって
思いつく前に　車輪は通り過ぎてった
隣の部屋の

ぐしぐし目玉のお年寄りに　あくるひ